# ３節 国際放送

国際放送は，世界の人々の日本に対する理解を深め，国際的な文化・経済交流の発展を促し，ひいては国際親善と人類の福祉に貢献することを目的としている。

テレビ国際放送（NHKワールドTV）は，95年４月から，北米，欧州向けに開始した。98年４月からは，デジタル化によって，アジア・太平洋地域にも日本語,英語で１日18時間の放送を開始し，10月からは，ほぼ全世界向けに拡大した。

さらに，99年４月からは，１日の放送時間を19時間とし，10月からは24時間放送を開始した。

01年８月には，送信衛星を変更して，それまで受信できなかったアフリカ南部地域でも視聴が可能となり，NHKワールドTVは世界中をカバーすることになった。08年10月に外国人向け放送のNHKワールドTVは，英語化率100％を達成した。

また，邦人向け放送はNHKワールドプレミアムチャンネルを活用して，国内放送のニュース・情報番組に加え，娯楽を供する番組など，より多彩な番組編成を実現し，ノンスクランブルでの新しい放送を開始した。さらに，09年２月に番組改定を行い，NHKワールドTVでは，英語ニュースを大幅に拡充し，国際放送局に新しく作ったニュース専用スタジオから24時間毎正時に編成するとともに，日本やアジアの情報を伝えるさまざまな番組についても，世界各地の好適視聴時間帯を強く意識した編成を実現した。09年４月より外国人向けテレビ国際放送の充実のために，新たに設立した日本国際放送（JIB）と連携して，日本の魅力を伝えた。インターネットでは，24時間動画配信を開始し，ニュースと国際放送局制作番組を放送と同時に配信している。

テレビ国際放送は，12年３月末現在，１億5,405万世帯が受信可能である。

短波によるラジオ国際放送（NHKワールドラジオ日本）は，35年に海外放送として開始した。戦後に一時中断,52年に国際放送として再開した。

日本語と英語で放送する「全世界向け放送」(ジェネラル・サービス，一般向け放送）と，地域ごとの言語で放送する「世界各地域向け放送」（リージョナル・サービス）と合わせて，07年度前半期は22言語で，１日65時間放送した。海外発信が欧米を中心にラジオ短波放送からテレビにシフトしていくのに伴い，07年度後半期には，短波放送の送信地域と送信時間を見直し，「全世界向け放送」を廃止して，地域に応じた効率的な情報発信を進めた。また，ドイツ語，イタリア語など４言語を廃止し，18言語に縮小した。一方，短波放送以外の新たな放送サービスとして，衛星を使用したラジオ国際放送を開始した。欧州および中東・北アフリカに向けて,06年度後半期より１日30分,08年度からは１日60分の放送をアラビア語で行っている。また，11年度は全地域向けに日本語・英語など14言語で１日５時間30分放送している。さらに中波・FM波による放送サービスも拡充し，11年度は７言語で１日３時間30分実施している。国際理解の促進を図るとともに放送番組を補完する観点から，インターネットにより国際放送のニュース等の提供も積極的に行っている。

## 放送番組の編成

国際放送番組の編成は，年度ごとに「編集の基本計画」で編成方針，重点事項など基本事項を定める。この基本計画に基づき「放送番組編成計画」を策定し，新番組の概要，編成時間などの具体的な計画事項や,放送番組時刻表を定めている。

国際放送番組審議会は,「基本計画」の諮問に対して答申するなど，放送番組の適正を図るため必要な事項を審議し，番組の編成や制作に役立てることを目的としている。

## Ⅰ．国際放送の放送番組編集の基本計画

海外の視聴者からの投書，番組内容についてのモニターや短波の受信状況についての技術モニターの報告，各種の調査などを参考にしつつ，11年度の番組提案を基に11年度の番組編成を検討し，「平成23年度国際放送（テレビジョン・ラジオ）の放送番組編集の基本計画」の原案を策定した。原案は12月中旬の国際放送番組審議会に諮問し，了承するとの答申を受け，１月中旬の経営委員会で議決承認された。

以下に原文どおり掲げるが，西暦で統一したほか，記号などは本書の方式に合わせた。

### １．編集の基本方針

11年度の国際放送番組（テレビジョン・ラジオ）の編集にあたっては，NHKワールドTVの刷新から３年目を迎え，これまで進めてきた様々な取り組みを検証します。番組内容の充実と視聴者本位の編成を追求し，世界の視聴者から信頼され

る国際放送としての基盤を固めます。

外国人向けテレビ国際放送（NHKワールドTV）では，各地で実施してきた視聴実態調査等の蓄積をもとに，視聴者のニーズに応える番組を制作・編成します。

ニュースは，国内外に広がる取材網から最新の情報を伝えるとともに，世界の視聴者から「欧米メディアとは異なる視点」「公正・公平で客観的な内容」と評価される，独自の報道や解説をさらに充実させます。

番組では，日本やアジアの政治・経済から伝統文化，最新の科学技術や流行まで，幅広い情報を多角的に伝えます。視聴者からの反響を詳細に分析し，既存番組をリニューアルしつつ，ターゲットをより明確にした番組の新規開発に取り組みます。

また，受信可能地域の拡大を進め，エリアごとの好適視聴時間をふまえたきめ細かな編成を行い，NHKワールドTVの定着を図ります。

邦人向けテレビ国際放送は，NHKワールドプレミアムのサービスを通じて，最新のニュースを中心に様々な番組を放送するとともに，各地の視聴者にとってより見やすい編成を目指します。また緊急時には在外邦人・日本人旅行者にとっての貴重なライフラインとして，正確で役立つ情報を迅速に提供します。

外国人向けラジオ国際放送は，短波をはじめ，衛星ラジオや中波・FM波による再送信など多様な手段でニュースや番組を伝え，日本文化の理解促進に貢献します。邦人向けラジオ国際放送では，日本国内の最新ニュースや話題を全世界に届けます。

インターネットでは，利用者が急速に拡大している高機能携帯情報端末や，動画配信サイトへの独自サービスの提供をより一層充実させます。テレビ英語番組のストリーミングの拡充や，新たな言語によるニュースの映像サービスの開発に努めます。

NHKの国際放送は，多彩なラインナップのニュース・番組を通じ，日本やアジアの“今”を伝えることで，国際的な相互理解を促し，異なる国や文化を結ぶ“架け橋”として，視聴者の期待と信頼に応えます。

## ２．編集の重点事項と各波の編集方針

### （１）テレビジョン国際放送

**〔外国人向けサービス〕**

**○日本とアジアの“今”を伝える英語ニュース**

NHKワールドTVの顔として定着した24時間毎正時の『NEWSLINE』をさらに充実させ，客観的で信頼できる日本とアジアの最新情報を世界の視聴者に届けます。

・これまでの北京，香港，バンコク，ソウルに加え，アジア経済の中心地の１つ，シンガポールにNHKワールドTVの取材拠点を整備，現地発ならではの機動力を生かし，最新の動きをいち早く伝えます。

・新しいデータベースシステムの運用を始め，国際放送局がこれまでに蓄積してきた映像素材を活用して，ニュースの背景や影響をさらに掘り下げます。

**○世界各地の視聴者の関心にきめ細かく応える英語番組**

世界各地で行っている視聴実態調査の結果を踏まえた番組の開発・編成に努めるとともに，既存番組のリニューアルにも積極的に取り組み，より魅力的なラインナップを実現します。

・急速に発展するアジア各国の現状を描くドキュメンタリーや，日本文化をテーマに国際的に活躍する著名人と語るトーク番組など，より多くの人々の関心に応える新たなジャンルの番組を新設します。

・若年層をターゲットにした企画を開発番組枠で積極的に編成し，視聴者の反響を分析しながら定着を図ります。

・地域放送局が制作した日本の自然や人々の営みを見つめる番組や，一般放送事業者の優れた作品を英語化し，世界に向けて発信します。

**◇テレビジョン国際放送番組の放送時間と部門別編成比率**

〔放送時間〕

世界全域……１日23時間程度が基本

〔部門別編成比率〕

定時放送において，報道番組60％以上，インフォメーション番組と合わせて90％以上を編成します。

**〔邦人向けサービス〕**

**○国内と同時に伝える最新のニュース・情報番組**

日本国内で放送される主要ニュースや情報番組を中心に，週末には家族で楽しめる娯楽番組も編成，あわせて１日およそ５時間放送し，“日本の今”

をリアルタイムで伝えます。

**○“安心”を支える情報**

海外で暮らす日本人や旅行者の重要なライフラインとして，内外で起きた大規模な地震，津波などの自然災害や，事件・事故などの緊急事態発生時には速やかにニュースを特設するなど，的確で迅速な情報の提供に努めます。

**◇テレビジョン国際放送番組の放送時間と部門別編成比率**

〔放送時間〕

世界全域……１日およそ５時間

北米・欧州地域等では地域衛星を使用して，各１日およそ５時間の放送を実施。

〔部門別編成比率〕

定時放送において，報道番組60％以上，インフォメーション番組と合わせて90％以上。娯楽番組を若干編成します。

**（２）ラジオ国際放送**

**〔外国人向けサービス〕**

**○ニュース・番組のさらなる充実**

ニュースは解説や独自取材を充実させ，よりわかりやすく伝えます。

また，週末の情報番組を刷新し，聴取者との双方向性を高めるとともに，より幅広い文化情報を発信するなど内容の充実を図ります。

**○多様な放送サービスの推進**

聴取者の要望に応え，より聴きやすい時間帯への放送時間の移設や，放送枠の増設を行います。

また，衛星ラジオや中波，FM波を利用しての多様な放送サービスをさらに推進し，聴取者層の拡大につなげます。

**◇ラジオ国際放送番組の放送時間と部門別編成比率**

〔放送時間〕（１日あたり）

17言語・合計……32時間20分

（短波26時間20分，衛星ラジオ２時間30分，中波・FM３時間30分）

〔部門別編成比率〕

定時放送において，報道番組60%以上，インフォメーション番組25%以上を編成します。

**〔邦人向けサービス〕**

**○最新のニュース・情報番組の提供**

国内の主要ニュース，時事番組，スポーツ中継，音楽番組，ラジオドラマなどの番組を国内と同時に放送し，日本の多彩な情報を伝えます。

**◇ラジオ国際放送番組の放送時間と部門別編成比率**

〔放送時間〕（１日あたり）

日本語……24時間

（短波20時間，衛星ラジオ４時間）

〔部門別編成比率〕

定時放送において，報道番組60%以上，インフォメーション番組25%以上，娯楽番組を若干編成します。

### ３．インターネット

**○デジタルコンテンツとサービスのさらなる充実**

インターネットでは，ニュースや番組のストリーミング配信をさらに充実させるとともに，高機能携帯端末向けでの実績をふまえた，コンテンツやサービスの開発に努め，利便性をより一層高めます。

・ライブストリーミングでは，国際放送局独自制作の英語ニュースや番組に加え，より多くの番組の配信に努めます。

・テレビとインターネットとのコンテンツ融合をはじめ，一部の独自番組のクリップ化によるオンデマンドなど，新しいメディアへの配信を積極的に試行し，接触者数の増加を図ります。

・ラジオでは音声ファイルをネット上で配信するポッドキャスティングや放送と同時に番組を聴取できるストリーミングの充実に加え，携帯電話によるインターネット利用が進む地域へのサービスの検討や，聴取者同士を結びつけ番組を核とした交流を可能にするソーシャルメディアへの展開など，新たなサービスの可能性を探ります。

## Ⅱ．国際放送番組審議会

11年度は11回開催された。会長の諮問に応じて，「平成24年度国際放送番組編集の基本計画（案）」について審議し答申したほか，定時番組，特集番組などについても審議し放送番組の適正化を図った。

11年度の主な審議内容は次のとおり。

４月　「NHKワールドTVのインターネット展開」について
　　テレビ『NEWSLINE』東日本大震災報道について

５月　テレビ『Booked for Japan』について

６月　「新放送法施行に伴う『国際番組規準』および『一般放送事業者の協力を求める規準および方法』の改正案について」（諮問・答申）
　　テレビ『Asia in View Episode1 : Internet Livens up Vietnam』について

７月　テレビ『NHKスペシャル「Mega Tsunami : How can lives be saved？」』および『NEWSLINE』について
９月　「平成24年度後半期の番組編成」について
ラジオ『今、世界のGENPATSUは』および『再生可能エネルギー拡大へ　日本の課題』について
10月　「NHKワールドTV　各賞の受賞」および「東日本大震災から半年」について
テレビ『JAPAN 7 DAYS　特集　東日本大震災から６か月』について
11月　「平成24～26年度 NHK経営計画」について
「NHKワールドTV 2011年度 第１四半期認知・視聴状況調査結果」について
テレビ『journeys in japan – Discovering a land of legends（遠野）』について
12月　「平成24年度　国際放送番組編集の基本計画（案）」について（諮問・答申）
テレビ『JAZZ for JAPAN – BOB JAMES visits IWATE after 3.11』について
１月　「2012年　NHKワールドTVの注目番組」について
テレビ『NEWSLINE』について
２月　「NHKワールド インターネットサービスの充実」「震災１年関連番組の特集編成」について
テレビ『Science View – Robot Cars Race to the Future』について
３月　「3.11関連番組のプロモーション」について
テレビ『SPORTS JAPAN』について

# 番　組　制　作

## Ⅰ．テレビジョン国際放送

### （１）外国人向け放送

24時間毎正時の英語ニュース『NEWSLINE』では，NHKのネットワークを生かして取材体制を強化，日本国内の情勢を世界に伝えるのみならず，国際情勢についても多角的に報道した。

定時番組では，国際放送独自制作の番組として，『Asia in View』や『Booked for Japan』『Science View』等を，国内放送番組を吹き替え等により英語化した番組として，『世界ふれあい街歩き』や『世界のエコツアー』等を新設したほか，通年で随時，東日本大震災をテーマにした『NHKスペシャル』を英語化して世界に発信した。

特集番組では，核問題・平和関連番組の『August Chronicles』，地域局の制作番組を英語化した『Hometown Stories』，民間放送局が制作した優れたドキュメンタリー番組を英語化した『BROADCASTERS'EYE』等を放送した。

11年３月11日に発生した東日本大震災関連については，震災からの復興，東京電力福島第一原発事故の状況などを伝えた。

### （２）邦人向け放送

１日およそ５時間『NHKニュースおはよう日本』『NHKニュース７』『ニュースウオッチ９』『クローズアップ現代』などの報道番組に加え，『NHKのど自慢』『金曜バラエティー』などの娯楽番組を国内と同時に放送した。また，『ひるブラ』『週刊ニュース深読み』『サキどり↑』『土曜マルシェ』『ディープピープル』『のんびりゆったり路線バスの旅』を新設した。また，外国人向け放送と同様に，11年３月11日に発生した東日本大震災からの復興，東京電力福島第一原発事故の状況などを伝えた。

## Ⅱ．ラジオ国際放送

11年度の外国人向け放送の放送時間は，17言語合わせて，１日当たり32時間19分。邦人向け日本語放送の放送時間は，１日当たり24時間。外国人向け放送と邦人向け放送を合わせると，18言語で，１日延べ56時間19分の放送を実施した。

### （１）外国人向け放送

外国人向け放送では，ロシア語，ヒンディー語，ウルドゥー語，ペルシャ語，アラビア語，スワヒリ語，ポルトガル語は，聴取者の要望に応え，より聴きやすい時間帯への放送枠の移設や新設を行った。また，衛星ラジオによる放送サービスを拡充し，英語，フランス語，スワヒリ語など13言語で１日１時間30分，全地域に向けて放送した。さらに，中波・FM波による放送サービスを順次拡充し，ロシア語，ウルドゥー語，ペルシャ語はタジキスタン中継による中波のサービスを新たに実施した。

ニュースは，世界各地域向けに日本語を除く17の言語で放送。11年度も外国人向け17言語では９分と14分（一部言語では土・日のニュースは10分）のニュース枠を継続し，東日本大震災に関するニュース，さらに日本の視点を踏まえての世界のニュースを伝えた。ニュース解説コーナーにつ

いては，タイトルを「インサイト」に刷新し，これまで以上に最新情勢を取り込むことをテーマに取り組んだ。なお，『英語ニュース』『スペイン語ニュース』『中国語ニュース』『ハングルニュース』『ポルトガル語ニュース』はラジオ第２でも継続放送。

『ラジオジャパンフォーカス』においては，通年で学ぶ「やさしい日本語」日本の最新事情を伝える「テクノ＆ビジネス」や「日本の昔話」等のコーナーを放送した。また，英語放送では，リスナーとの交流を目指す新番組『Friends around the World』をラジオ第２と同時放送した。

**（２）邦人向け放送**

邦人向け放送においては，衛星ラジオによる日本語放送を，１日24時間実施した。国際放送局が制作する日本語ニュースや海外安全情報に加え，国内の主要ニュース，時事番組，スポーツ中継，音楽番組，ラジオドラマなど，多彩な番組を国内と同時放送し，リアルタイムで国内外の最新情報を伝えた。このほか『地球ラジオ』『大相撲中継』『真打ち競演』『上方演芸会』『第62回NHK紅白歌合戦』等をラジオ第１との同時放送および時差放送で行った。また特集番組として『今、世界の“GENPATSU”は』『世界をつなげ！ニッポンのうた』を制作し，日本国内でも放送した。

### ◇主な特集・特別番組（テレビ，ラジオ）

４月『総理記者会見』（テレビ：英語／日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー）
『LAST ARTISAN』（全３回）（テレビ：英語）
『2011統一地方選開票速報』（テレビ：日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー）
『特設ニュース　福島と茨城で震度６弱　津波警報』（テレビ：英語／日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー）
『特設ニュース　原子力保安院会見　事故評価　最悪のレベル７』（テレビ：英語／日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー）
『プレヴィン・N響 祈りの響き～N響イン・パーチェス』（テレビ：英語）
『2011統一地方選 衆院補選 開票速報』（テレビ：日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー）
『int'l After School』（テレビ：英語）

５月『Destination KANSAI』（全４回）（テレビ：英語）
『SAMURAI SPIRIT 空手』（テレビ：英語）
『総理記者会見』（テレビ：英語NEWSLINE内／日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー）
『ブラジル発ラジオ深夜便』（ラジオ：日本語R1スルー）
『総理記者会見 G8サミット』（テレビ：英語／日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー）

６月『国会中継 党首討論』（テレビ：日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー）
『特設ニュース「菅内閣不信任決議案」関連』（テレビ：英語／日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー）
『BROADCASTERS'EYE』（テレビ：英語）
○田舎のコンビニ～一軒の商店から見た過疎の４年間（テレビ金沢）
○少年たちは戦場へ送られた（信越放送）
○ドラマ　ミエルヒ（北海道テレビ）
『沖縄全戦没者追悼式』（テレビ：日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー）

７月『Cheaper Deeper』（全４回）（テレビ：英語）
『ニュージーランド沖の南太平洋でM7.8の地震』（テレビ：英語NEWSLINE内／日本語字幕ニュース，ラジオ：日本語R1スルー）
『日本人の知らない日本へ　鯨と生きる島～小笠原諸島』（テレビ：英語）
『総理記者会見』（テレビ：英語NEWSLINE内／日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー）
『Forbidden Kyoto ～The Depth of Green Tea』（テレビ：英語）
『Leslie Kee's Super Asians』（テレビ：英語）

８月『Green Style Japan』（全４回）（テレビ：英語）
『ALTERNA JPN 2011』（全４回）（テレビ：英語）
『平成23年広島平和記念式典』（テレビ：英語／日本語総合スルー，ラジオ：日本語）
『平成23年長崎平和祈念式典』（テレビ：英語／日本語総合スルー，ラジオ：日本語）
『全国戦没者追悼式』（テレビ：日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー）
『August Chronicles』（テレビ：英語）
○終戦特集ドラマ「15歳の志願兵」
○日本人はなぜ戦争へと向かったのか（全４回）
○白熱教室JAPAN　ヒロシマからフクシマへ届けられるもの（全２回）

○原爆棄民　韓国人被爆者の65年
○赤い背中　原爆を背負い続けた65年
○二度と原爆を使ってはいけない～ナガサキを見た占領軍司令官
『今、世界の“GENPATSU”は』（ラジオ：多言語，日本語）
『On Shanks' Mare Traveling Japan in Ukiyo-E』（テレビ：英語）
『特設ニュース「菅首相退陣表明」関連』（テレビ：英語／日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー）
『民主党代表選挙共同記者会見』（テレビ：日本語総合スルー，ラジオ：R1日本語スルー）
『特設ニュース「民主党代表選」関連』（テレビ：英語／日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー）
『民主党新代表会見』（テレビ：英語／日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー）
『特設ニュース「首相指名選挙」関連』（テレビ：英語／日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー）

9月『For the Recovery～東日本大震災・被災地の絆』（テレビ：英語）
『総理記者会見』（テレビ：英語／日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー）
『Kampai！ A Guide to Great Drinks』（全４回）（テレビ：英語）
『The Ultimate Sumo Challenge -69th Yokozuna Grand Champion Hakuho』（テレビ：英語）
『渡辺謙アメリカを行く～“9.11テロ”に立ち向かった日本人』（テレビ：英語）
『JAPAN,6 MONTHS ON』（テレビ：英語）
『9/11:DEFINING A DECADE』（テレビ：英語）
『国会中継　所信表明演説』（テレビ：日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー）
『総理記者会見』（テレビ：日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー）

10月『Hometown Stories』（テレビ：英語）
○金とく エコ田んぼ　完結編　命の結晶お米ができた！
○ふるさと発スペシャル“ばっちゃん”引退～広島・基町　名物保護司　最後の日々
○九州沖縄スペシャル　とうとがなし　ばあちゃん～与論島　死者を弔う洗骨儀礼
○福岡発ドラマスペシャル　母（かか）さんへ
『The Mark of Beauty』（全３回）（テレビ：英語）
『JAZZ FOR JAPAN～ボブ・ジェームズ in 岩手』（テレビ：英語）

11月『Itadakimasu！Dining with the chef』（全４回）（テレビ：英語）
『総理記者会見』（テレビ：日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー）
『二人の旅路～日中激動を生きた京劇夫婦』（テレビ：英語）
『国会中継 党首討論』（テレビ：日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー）
『プロ野球 クライマックスシリーズ・日本シリーズ』（ラジオ：R1スルー）

12月『総理記者会見』（テレビ：日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー）
『Documenting the Japan 3.11 Disaster』（テレビ：英語）
○巨大津波　“いのち”をどう守るのか
○巨大津波　知られざる脅威
○巨大津波　その時ひとはどう動いたか
○飯館村　人間と放射能の記録
○果てしなき苦悩　巨大津波　医師たちの記録
○東北　夏祭り　～鎮魂と魂と～
『AMAZING ARTS OF JAPAN』（全２回）（テレビ：英語）
『総理記者会見』（テレビ：日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー）
『ドナルド・キーン　日本人を語る』（テレビ：英語）
『特設ニュース「北朝鮮キム総書記死去」関連』（テレビ：英語／日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー）
『杉本文楽　曽根崎心中』（テレビ：英語）
『第62回NHK紅白歌合戦』（テレビ：日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー）
『ゆく年くる年』（テレビ：英語／日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー）

１月『VIEWERS'CHOICE 2011』（テレビ：英語）
『世界をつなげ ニッポンの歌』（ラジオ：日本語）
『総理記者会見』（テレビ：日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー）
『にっぽん紀行』（テレビ：英語）
○15歳旅立ちの島唄～沖縄・南大東島
○心つなぐ誕生の笑顔～福井・出産写真の

町
○50歳の運動会～鹿児島・阿久根
○金沢　芸妓ふたり
『インドネシア・スマトラ沖でM7.3の地震』（テレビ：日本語字幕ニュース，ラジオ：全地域向け日本語）
『NEWSLINE・台湾総統選挙関連』（テレビ：英語）
『Forbidden Kyoto-A Feeling of Winter』（テレビ：英語）
２月『三代友達～大地の祈り 黒川能の絆』（テレビ：英語）
『Great Gear』（テレビ：英語）
『COOK IT RAW～世界のトップシェフが大地に挑んだ４日間』（テレビ：英語）
『MAPPING KYOTO STREETS』（テレビ：英語）
『ダボス会議2012』（テレビ：英語）
『Kawaii International』（テレビ：英語）
『SPORTS JAPAN』（テレビ：英語）
『国会中継 党首討論』（テレビ：日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー）
３月『プロフェッショナルな女たち～放送ウーマン編』（テレビ：英語）
『The Core of the Disaster』（テレビ：英語）
○原発事故　その時何が
○原発危機　知られざる放射能汚染～海からの緊急報告
『LESSONS OF MARCH 11th ONE YEAR ON』（テレビ：英語）
『ありがとうコンサート“日本を支えてくれた世界の皆さまへ”』（テレビ：英語）
『BROADCASTERS'EYE』（テレビ：英語）
○クニマスは生きていた！“奇跡の魚”はいかにして「発見」されたのか（毎日放送）
○サヨばあちゃんの無人駅（静岡放送）
○自然のふところで～森のようちえん　まるたんぼう流（山陰中央テレビ）
『アフリカ・人権を守る放送をめざして』（テレビ：英語）
『メキシコでM7.8の地震』（テレビ：英語／日本語字幕ニュース，ラジオ：全地域向け日本語）

# Ⅲ．インターネット展開

## ◇概況

世界に向けた情報発信を担う国際放送局では，比較的低いコストでユーザーにコンテンツを送ることのできるインターネットを，従来のテレビ，ラジオと並ぶ発信の３つの柱と位置づけて，「NHKワールドTV」のライブストリーミングを実施するなど，有効利用を図っている。

11年度は，９月に，インターネットを利用したテレビ番組の配信に貢献した放送局などに対して贈られる「コネクティッド・ワールド・ティービー・アワード」（Connected World TV Award）放送局部門の最優秀賞「ブロードキャスター・オブ・ザ・イヤー」に「NHKワールドTV」のインターネットサービスが選ばれた。東日本大震災の後，高画質でストリーミングを行い，震災の最新のニュースをライブ映像で世界に伝え続けたことが評価された受賞であった。

さらに，部を横断する形で「インターネット・プロジェクト」を設置し，「NHKワールド」ホームページの全面的なリニューアルに向けて，関係各部が連携しながら準備に着手した。そして，12年１月には，ラジオ日本全18言語でライブストリーミング開始，同年２月には，ワールドTVアンドロイドアプリを海外向けに公開，同年３月には，サイト内検索の強化など，サービスを強化した。

「NHKワールド」ホームページのページビュー数は，11年度累計１億4,000万となり，「１億3,000万ページビューの実現」という年間目標を達成した。

## １．テレビ関連サービス

NHKワールドTVのライブストリーミング（放送と同時のインターネット配信）は09年２月から開始した。これは放送法第20条第２項第５号に基づく業務である。11年度，「NHKワールド」ホームページでは３種類の画質で配信を行ったほかiPhoneアプリ，iPadアプリに加えてアンドロイドアプリでも視聴できる体制をとった。

### （１）ホームページでのサービス

「放送法第20条第２項第２号業務の基準」（インターネット実施基準）の中で，既放送番組等については，外国語による外国人向け情報の提供を「必要に応じ，積極的に実施する」こととしている。このことを受けて，「NHKワールド」ホーム

ページでは，ニュース・番組の文字・動画サービスを展開している。『NEWSLINE』のニュース原稿を動画つきで提供，さらに『NEWSLINE』のウィークリー企画，Nuclear Watch・The Road Ahead・China Reportの動画を放送後１か月間公開した。ニュース系番組ではさらに，『Japan 7 Days』について，ニュースアップコーナーの動画を，放送後２週間公開した。情報番組では，『TOKYO EYE』について11年５月第１週以降の放送回の各回１本のVTRを，権利処理と再編集を行ったうえで動画として提供した。

特集編成については，８月放送の『August Chronicles』，10月放送の『Hometown Stories』，12月放送の『Viewers'Choice』について特設ページを制作，スポットを転用した予告動画を紹介したほか，海外の視聴者の声を集めるフォームを設け，寄せられた声の一部を紹介した。

**（２）その他のサービス**

動画配信ポータルサイト・ユーチューブの公式ホームページ「NHKワールドチャンネル」では，「NHKワールドTV」用ウィークリー広報番組「Choice of the Week」（90秒）などのPRスポットを掲載した。09年１月の開設から12年３月末での累計再生回数は79万回あまり，登録ユーザー数は5,000人であった。

### ２．ラジオ関連サービス

**（１）ホームページでのサービス**

ラジオ日本についても，放送法第20条第２項第５号に基づきライブストリーミングを提供，同２号に基づきオンデマンドで音声を提供している。さらに，テキストニュース，ニュース動画なども公開している。概要は次の通りである。

○ニュース音声（18言語）
・ライブストリーミング（放送と同時配信）
・オンデマンドストリーミング
・ポッドキャスティング（日本語を除く）
○テキストニュース（10言語）
・アラビア語，中国語，フランス語，インドネシア語，朝鮮語，ポルトガル語，ロシア語，スペイン語，タイ語，ベトナム語
・災害等 緊急時は随時更新
○ニュース動画（中国語）
・１日１回（月～金）更新
○企画動画（中国語，ポルトガル語）
・週２回（中）／週１回（ポル）更新
○番組音声（18言語）
・ライブストリーミング（放送と同時配信）
・オンデマンドストリーミング
・公開期間は放送後１週間
・日本語は『海外安全情報』（ライブ，および一部時差／オンデマンド）
　『地球ラジオ』（ライブ）のみ
○番組特設ページ（17言語）
・『やさしい日本語』
・『Let's cook Japanese』（料理番組）
・『Welcome to Amazing Japan』（旅番組）
・『日本の昔話』（現在は中, 英, 西の３言語のみ）

なお，概況でも紹介した通り，12年１月よりラジオ日本全18言語でライブストリーミングを開始した。もともと１系統であった配信サーバを８系統に拡充することで，①同時複数番組の配信を可能にし，②番組を含むすべてのコンテンツの配信を可能にしたものである。

**（２）その他のサービス**

NHK読み上げ版携帯サイトに英語，中国語，朝鮮語，ポルトガル語，スペイン語でニュースを配信している（同じコンテンツをNHKグローバルネットワークが実施しているコンテンツ販売に提供）。

## 広報・反響

## Ⅰ．広　報

### ◇概況

従来のワールドTVで放送するスポット等に加え，11年度は，部を横断する形で立ち上げたプロモーションプロジェクトで特集編成を効果的に周知する戦略を策定し，各国放送事業者等への番組情報・スポット・画像の提供を行ったほか，各国新聞・雑誌にオンライン広告等を掲載した。さらにラジオ日本では，リスナー層拡大を目指し海外でイベントを開催した。

### ◇PR

### １．ワールドTV関連

**（１）NHKワールドTVでのスポット放送**

定時番組と特集編成スポットを前年並みに実施し，ワールドTV視聴者の定着を図った。

**（２）各国放送事業者でスポット放送**

NHKでスポットを制作し，香港IPTV局と１日数時間を配信しているPBSなどの米公共テレビ局

に提供し，ワールドTVの視聴を促進した。また，11年12月放送「Documenting the Japan 3/11 Disaster」シリーズと12年３月放送「Core of the Disaster」シリーズでは，上記以外の各国放送事業者に対してもスポットを提供した。

**（３）インターネット**

ネットユーザーに対してワールドオンラインでは，Highlightsコーナーで各月重点番組を告知した。さらに11年12月放送「Documenting the Japan 3/11 Disaster」シリーズでは，アメリカ６紙のウェブサイトにバナー広告を出稿，12年３月放送「Core of the Disaster」シリーズでは，海外新聞８紙・雑誌１誌のウェブサイトにバナー広告を出稿し，ワールドTVを受信する各国の放送事業者にユーザーを誘導した。

さらに各国放送事業者に対しては，上記２シリーズの告知を行い，各事業者のホームページ上での広報を働きかけた。

**（４）出版物**

香港ケーブルテレビ２誌に継続的に出稿したほか，11年12月放送「Documenting the Japan 3/11 Disaster」シリーズではアメリカ１紙に出稿，12年３月放送「Core of the Disaster」シリーズでは新聞７紙・雑誌１誌に出稿し，ワールドTVを受信する各国の放送事業者に読者を誘導した。

**（５）イベント参加**

APT総会，MIPCOMに参加し，各国放送事業者にワールドTV受信を促した。

**（６）受信公開**

新東京国際空港（成田空港）の制限区域内にあるモニター10か所で，NHKワールドTVの受信公開を継続した。

## ２．ラジオ日本関連

**（１）インターネット**

ネットユーザーに対してはワールドオンラインRadio Highlightsと17言語ページにおいて，重点番組等の告知を行った。

**（２）出版物**

11年度はタイ１紙に出稿し，短波放送リスナーの拡大を図った。

**（３）イベント開催**

朝鮮語放送では11年10月ソウルの在韓国日本大使館講堂で，イベント「NHKに恋ハセヨ in ソウル」を開催，NHKとKBSアナウンサーのトークを公開収録しラジオ日本とBS1で放送したほか，地元紙の取材も受け，リスナー層拡大を図った。

スワヒリ語放送では12年２月アフリカ・タンザニア全土でFM放送を開始。これを記念して現地で記念イベントを開催するとともに，路線バスに広告を掲示した。イベントのもようは現地FM局で生中継された。またFM放送開始に合わせて特別番組を放送し，携帯電話でのショートメッセージサービス（SMS）による投稿を募った。タンザニアのみならず，周辺のモザンビーク，ケニア，コンゴからもメッセージが届いた（タンザニア国境近くの放送で聴取したと思われる）。メッセージの数は１日だけで660通に達し，通常スワヒリ語放送に届く投書の２か月分を超える大きな反響があった。投稿者の多くが今回初めてラジオ日本を聴いたリスナーからのものであり，新たなリスナー開拓につながった。

ベトナム語放送とベンガル語放送では，放送開始50年を記念して現地で人気番組「日本の家庭料理を作ろう」の公開収録や，日本と放送対象国の友好を考えるシンポジウムなどのイベントを行なった。その結果，従来からの短波愛好者の他，インターネットで番組に触れた若いリスナーが多く集まった。

## ３．NHKワールド全般　紙媒体等の展開

**（１）**NHKワールドの全体像を紹介する「コンセプトブック」（英語/日本語/スペイン語/ポルトガル語），NHKワールドTVの番組表と番組内容を紹介するパンフレット，ラジオ日本の周波数表などを作成。国内外のNHKほか，政府機関・民間企業・一般視聴者などに送付し，NHKワールドのサービス周知に努めた。

**（２）**広報活動の一環として，NHKサービスセンター制作の「NHKワールド・カレンダー」フォトコンテストを前年度に引き続きNHKサービスセンターと共催した。11年度には3,259点の応募があり，27点を受賞作品に選定した。これらの写真は，壁掛けカレンダー，卓上カレンダーのほか，受信報告に答えるためのベリカードなどに使用した。カレンダーは，各国大使館・領事館，海外の放送局，日系人協会，日本人学校などに配布し，NHKワールドTV，ラジオ日本，インターネットサービスの利用者拡大を図った。

**（３）**国内の外国語学習者を対象に，NHK語学講座（７言語）のテキストに広告を出稿した。

**（４）**10年度に引き続き，雑誌「海外赴任リロケーションガイド」「帰国ガイド　到着から帰国まで2011年度版」に出稿した。

### ◇モニター

モニターの募集は，前期と後期の年２回実施。ワールドTV上でのスポットとホームページを連動させて周知を行った。11年12月現在，テレビ番組モニター102人，ラジオ番組モニター63人，ラジオ技術モニター59人という体制である。

## Ⅱ．反　響

### ◇反響の周知と活用

○投書数

NHKワールド ラジオ日本への11年度の郵送・Eメールによる投書数は４万1,579件で，10年度と比べて，831件の増加となった。このうち，郵送による投書数は１万210件で10年度より1,619件減少し，Eメールによる投書数が３万1,369件で，10年度に比べて2,450件の増加となった。

NHKワールドTVへの11年度の海外からのEメール等での投書数は6,658件となり，10年度と比べて1,261件の減少となった。

○反響の活用

テレビとラジオへの反響は，週１回「反響メモ」としてまとめ，イントラ上から閲覧できるようにしている。また「NHKワールド　ラジオ日本投書概況」「ラジオ日本モニター報告」と「NHKワールドTV海外番組モニター報告＆反響」を月１回まとめている。これらは，国際放送局の各番組担当者にフィードバックし，放送の質のさらなる向上に役立てるとともに，考査室のまとめる国際放送考査資料としても利用されている。

# 技術・施設

## Ⅰ．テレビの送受信

「NHKワールドTV」は，英語による「外国人向けテレビ国際放送」で，09年２月に専用スタジオを設け24時間毎正時ニュースを放送している。09年12月には，標準画質の放送に加え，ハイビジョンによる放送も開始した。放送はノンスクランブル（無料）で，インテルサット社の３つのCバンド衛星を使い，ほぼ全世界をカバーしている。受信には直径2.5メートル以上のパラボラアンテナが必要なため，NHKでは，小型のアンテナで受信できる放送衛星（Kuバンド）や地域のCATV，IPTVなどを通じて，より簡便に視聴できるよう受信環境の整備を進めている。11年度末には，20機の放送衛星でおよそ130か国のエリアをカバーし，約１億5,400万世帯で視聴が可能となった。（図１）

「NHKワールド プレミアム」（テレビ番組配信）は，「NHKワールドTV」と同じ３つのCバンド衛星で，海外のCATVや衛星放送局などの放送事業者にNHKの番組を有償で配信し，各事業者が放送する邦人向けのサービスである。

「テレビジャパン」は，北米NCMA社（NHK Cosmomedia America, Inc. ニューヨーク）と欧州NCME社（NHK Cosmomedia Europe Ltd. ロンドン）２社が，放送衛星（Kuバンド）を使って91年から実施している有料の邦人向け放送である。NHKや民放の番組にスクランブルをかけて放送している。

「NHKワールド プレミアム」と「テレビジャパン」を使って，１日およそ５時間，ノンスクランブル（無料）の「邦人向けテレビ国際放送」を実施している。

## Ⅱ．ラジオの送信

11年度，「NHKワールド ラジオ日本」は，放送対象地域のメディア状況に即した，一層効率的で効果的な送信体制への移行を図った。具体的には，11年３月27日から海外中継体制を変更し，短波の送信体制を見直すとともに，中波やFM波，衛星ラジオなどの新たなメディアを使った送信を拡充した。短波については八俣送信所と10の海外中継局からの送信体制とした。さらに中波，FM波による新メディア展開を，９つの国と地域で実施した。（図２）

**○八俣送信所**

送信機６台（300kW：５台，100kW：１台），アンテナ18式（カーテン型：15式，水平LP型：３式），25方向で送信。ラジオ国際放送を１日67時間55分送信した。さらに，海外の放送機関と相互に送信施設を提供し合い相互に中継を行う「交換中継」として，カナダ放送協会（CBC）の国際放送「ラジオ・カナダ・インターナショナル（RCI）」の番組を２時間送信し，合計で１日69時間55分送信した。

**（１）カナダ中継放送**

86年10月に，サックビル中継局の250kW送信機を借用し放送開始。88年からはCBCとの交換中継とした。93年に借用中継を再開。11年度は，

中米向けに２時間の交換中継のほか，北米東部，北米西部，中米，南米向けに合わせて５時間30分の借用中継を実施。合わせて１日７時間30分送信した。

**（２）イギリス中継放送**

92年７月から，スケルトン中継局などの500kW送信機などを借用し放送。11年度は，欧州向けに１日30分の送信を実施。

**（３）シンガポール中継放送**

96年４月に，クランジ中継局の250kW送信機を使用し借用中継を開始。11年度は，東南アジア，南西アジア向けに１日８時間30分の送信を実施。

**（４）ボネール中継放送**

03年10月から，ボネール中継局（オランダ領）の250kW送信機を借用し放送を実施。11年度は，南米，中米向けに１日５時間30分送信した。

**（５）フランス中継放送**

08年３月30日に，イスーダン中継局の500kW送信機を借用し放送を開始。11年度は，アフリカ西部，中部，南部，中東・北アフリカ向けに１日８時間30分送信した。

**（６）ドイツ中継放送**

08年３月30日に，ヴェルタハタル中継局の500kW送信機などを借用し放送開始。11年度は，中東･北アフリカ向けに１日３時間の送信を実施。

**（７）ウズベキスタン中継放送**

09年３月29日に，ウズベキスタン中継局の100kW送信機を借用し放送を開始。11年度は，南西アジア，中東・北アフリカ向けに１日２時間45分送信した。

**（８）リトアニア中継放送**

10年３月28日にリトアニア中継局の100kW送信機（短波）を，11年３月27日に同局の500kW送信機（中波）を借用し放送を開始。11年度は，欧州向けに短波・中波それぞれ１日30分の送信を実施した。

**（９）マダガスカル中継放送**

10年３月28日に，マダガスカル中継局の250kW送信機を借用し放送を開始。11年度は，アフリカ東部，中部，西部，および南西アジア向けに１日３時間の送信を実施。

**（10）チリ中継放送**

10年３月28日に，チリ中継局の100kW送信機を借用し放送を開始。11年度は，南米向けに１日１時間送信した。

**（11）アルメニア中継放送**

09年３月29日に，アルメニア中継局の1,000kW送信機（中波）を借用し放送を開始。11年度は，中東・北アフリカ向けに１日30分の送信を実施。

**（12）モスクワ中継放送**

09年３月29日に，モスクワ中継局の10kW中波送信機（中波）を借用し放送を開始。11年度は，モスクワ市および周辺地域向けに１日１時間送信した。

**（13）タジキスタン中継放送**

11年３月27日に，タジキスタン中継局の300kW送信機（中波）を借用し放送を開始。南西アジア，欧州，中東向けに１日１時間45分の送信を実施。

**（14）インドネシア中継放送**

09年３月29日に，インドネシアのFMラジオ局の放送時間を借用し，放送を開始した。11年度は，インドネシアの首都ジャカルタを含む主要35都市で，１日45分の送信を実施。

**（15）ヨルダン川西岸中継放送**

09年４月26日に，パレスチナ自治区ヨルダン川西岸地区のFMラジオ局の放送時間を借用し放送開始。11年度は，ラマラ，ジェニンの２都市で１日30分送信した。

**（16）アフガニスタン中継放送**

10年３月28日に，アフガニスタンのFMラジオ局の放送時間を借用し放送開始。カブール，ヘラートの２都市で１日30分の送信を実施。

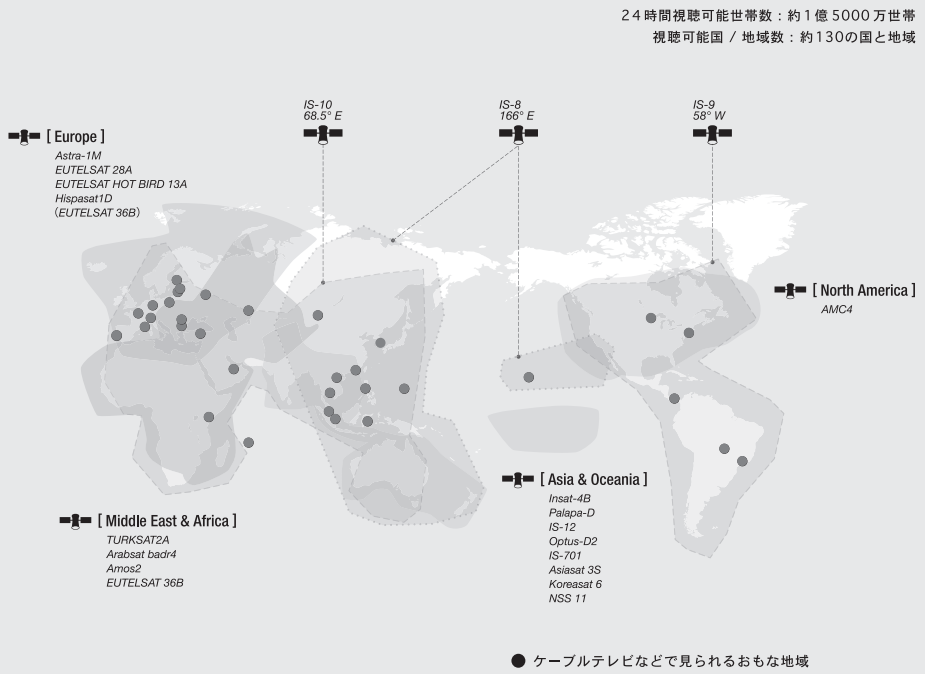
**（17）バングラデシュ中継放送**

10年10月31日に，バングラデシュの国営FMラジオ局の放送時間を借用し放送開始。11年度は，首都ダッカと主要６都市で１日45分送信した。

**（18）タンザニア中継放送**

12年３月25日に，タンザニア放送協会（公共放送）のFMラジオ局の放送時間を借用し，放送を開始した。ダルエスサラームほか22都市で１日30分送信。

## 図1「NHKワールドTV」等のカバーエリア




## 図2「NHKワールドラジオ日本」の送信方向概念図

（2012年3月末現在）